

看護大学生への 新入生宿泊オリエンテーション実施による効果の検証

山田真衣 黒田梨絵 石野徳子 山崎洋子

健康科学大学 看護学部 看護学科

Effects of overnight orientation conducted for new nursing students post university enrolment

YAMADA Mai, KURODA Rie, ISHINO Tokuko, YAMAZAKI Yoko

要 旨

本研究では、宿泊オリエンテーション直前および終了直後と、大学生生活開始後の3時点で質問紙調査を実施し、宿泊オリエンテーションのプログラムが大学生生活適応にどの程度効果があるのかを検証することを目的とした。

調査方法は、2019年度に本大学に入学した看護学部の学生62名を対象に、質問紙調査を実施した。調査内容については、対象者の基本属性および、宿泊オリエンテーションのプログラムに沿った独自の質問を17項目と、藤本ら⁴⁾が開発したコミュニケーション・スキル尺度ENDCOREsを用いた。その結果、新入生宿泊オリエンテーション実施直前と終了直後の比較では、宿泊オリエンテーションは楽しかった ($U=1246.5$, $p=0.001$)、大学教員から大学生の心得を学んだ ($U=1227.5$, $p=0.001$)、大学生になるのだと実感できた ($U=1535.0$, $p=0.040$)等の項目得点が有意に上昇した。新入生宿泊オリエンテーション実施直前と大学生生活開始後の比較では、宿泊オリエンテーションは楽しかった ($U=1306.5$, $p=0.001$)、大学教員から大学生の心得を学んだ ($U=1444.0$, $p=0.011$)、等の項目得点が統計学的に有意に上昇した。

これらのことから、学生間の関係性が未確定の時期の宿泊オリエンテーションは、新たな人間関係構築の場として有効であるとともに、学生生活に適応するための大学生としての心得を学び自覚する動機づけの場として有効であると考えられる。

キーワード：新入生，宿泊オリエンテーション，看護大学生，初年次教育

I. はじめに

1. 研究背景

現在、様々な大学で「初年次教育」の一環として宿泊型のオリエンテーションが実施されている。この宿泊オリエンテーションを入学直後に実施することで、仲間や教員との関係作りができ、意欲を教育的に意味ある行動へと具体化できることが本吉ら¹⁾や辻野ら²⁾より報告されている。また、新入生オリエンテーションで形成されたグ

ループからは、その後の友人関係に発展しにくいことが西村ら³⁾の調査で明らかにされており、その対処法として自由時間の確保が重要であることが示唆されている。

本学科においても開学初年時より、大学生生活に早期に順応できるよう新入生宿泊オリエンテーションが実施されている。内容は、仲間作りを意識したもの、教職員や学生間のコミュニケーション能力や技術、大学生に求められる常識・生活態

度などを身につけるための初年次教育に焦点を当てており、早期に学業に専念できる環境を整えるために実施している。しかし、この宿泊オリエンテーションを実施したことによる評価がなされていない。

そこで本研究では、宿泊オリエンテーション直前および終了直後と、大学生生活開始後の3時点で質問紙調査を実施した。それにより、宿泊オリエンテーションを実施したことで学生間のコミュニケーションが図れたかを明らかにし、宿泊オリエンテーションのプログラムが大学生生活適応にどの程度効果があるのかを検証する。

2. 宿泊オリエンテーションのねらいと主な内容

宿泊オリエンテーションは、「大学で学ぶ自分を理解し、コミュニケーション力やチームワーク力を鍛えながら、看護を学習するイメージがもてる」ことを目的に、1泊2日で実施した。宿泊型のオリエンテーションにすることで、時間に制約されず自由時間が確保でき、学生間の交流が活発になると考え実施した。宿泊オリエンテーションの日程を表1に示した。

宿泊オリエンテーション中に、初年次教育プログラムを4講座行った。内容は、看護大学生としての心構え、学習に関するものとして授業の受け方講座ではノートのとおり方や使い方、職業講話として看護師の資質や自身が看護師を目指した気持ちの振り返り、他者と協力して達成感を体験するチームビルディングを行った。また生活に関するものとしては、一人暮らしやアルバイト、悪徳商法への対応方法、喫煙・飲酒に関する問題等、これからの大学生が巻き込まれやすい危険について講話を行った。

II. 研究方法

1. 調査対象

2019年度に本大学に入学した看護学部の学生62名。

2. 調査日

1) 宿泊オリエンテーション直前調査：

2019年4月4日

2) 宿泊オリエンテーション後調査：

2019年4月8日

3) 大学生生活開始後調査：

2019年6月3日

3. 本研究における介入プロセス (図)

新入生の看護学生を対象に、第1回目を宿泊オリエンテーション直前に質問紙調査を実施した(宿泊オリ直前調査)。調査票は、宿泊オリエンテーションのプログラムを開始する前の昼休みに配付し、教室に回収箱を設置し回収した。

第2回目は、宿泊オリエンテーション終了直後に質問紙調査を実施した(宿泊オリ後調査)。調査票は、昼休みに配付し、教室に回収箱を設置し回収した。

第3回目は、大学生生活を開始し2か月経過した時点での質問紙調査を実施した(大学生生活開始後調査)。調査票は、昼休みに配付し、教室に回収箱を設置し回収した。

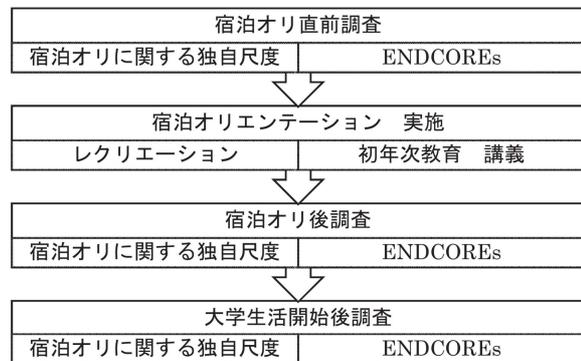


図 本研究における介入プロセス

4. 調査内容

調査内容は、対象者の基本属性および、宿泊オリエンテーションのプログラムに沿った独自の質問を17項目作成し、選択式回答とした。選択式回答の内容は、「とてもそう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない」の5段階で調査した。

また、藤本ら⁴⁾が開発したコミュニケーション・

スキル尺度ENDCOREsを用いた。具体的には、コミュニケーション・スキルを構成する、「自己統制」「表現力」「読解力」「自己主張」「他者受容」「関係調整」のメインスキルから、それぞれ4項目ずつの計24項目である。選択式回答の内容は、「かなり得意、得意、やや得意、ふつう、やや苦手、苦手、かなり苦手」の7段階で調査した。

大学生活開始後調査においては、宿泊オリエンテーションの継続の必要性の有無、宿泊オリエン

テーションのよかった点と困った点を尋ねた。

5. 分析方法

統計学的処理は、IBM SPSS Statistics 25を用いて解析を行った。基本属性および選択項目の質問については、単純集計を行った。また、宿泊オリエンテーション前後の統計的有意差はMann-WhitneyのU検定を行った。また、コミュニケーション・スキル尺度ENDCOREsは、下位尺度ご

表1 宿泊オリエンテーションの日程

時間	内容
4月4日	
	昼食
13:00	集合 開会式 1. 開式のあいさつ 2. スケジュール確認および注意事項
13:20 ~	レクリエーション
14:30	点呼・バス乗車
14:40	桂川キャンパス 出発
15:40	宿泊施設 到着 各部屋に入室
16:00 ~	キャンパスライフの充実のために
17:00 ~	初年次教育プログラム ① [看護大学生としての心構え]
18:00 ~	夕食
19:00 ~	初年次教育プログラム ② [授業の受け方講座]
20:00 ~	入浴・就寝準備 学生間交流
各自	消灯
4月5日	
6:30	起床 部屋の片づけ・清掃
7:30 ~	朝食
8:45 ~	荷物搬出
9:10 ~	点呼・バス乗車
9:30	宿泊施設 出発
10:00	富士山キャンパス 到着
10:20 ~	初年次教育プログラム ③ [職業講話]
11:40 ~	初年次教育プログラム ④ [チームビルディング]
13:00 ~	昼食
14:00 ~	富士山キャンパス・健康科学大学クリニック 見学
16:00	桂川キャンパス 到着
解散	

とに得点を加算し、項目数で割り算をして尺度得点を算出し、単純集計を行い、尺度で分けた母集団内のグループの差についてはMann-WhitneyのU検定を行った。

6. 倫理的配慮

本研究の実施に先立ち、健康科学大学倫理委員会の審査を受け、承認を得た(承認番号:H30第029号)。また、本研究で使用する、コミュニケーション・スキル尺度ENDCOREsの開発者である藤本学氏に使用の承諾を得てから使用した。

調査対象となる新1年生に対しては、本研究の目的や方法、倫理的配慮などについて書面と口頭で説明し、質問紙の協力意思確認欄にチェックが入っているものを研究協力への同意と判断した。倫理的配慮の内容は、研究協力に関する自由意思の尊重、研究への参加・不参加や途中辞退による不利益が生じない保証、個人情報保護とデータ管理の徹底、結果の公表における匿名性の確保である。

結果の公表は本学が発行している紀要や、関連学会で発表することも口頭で説明した。また、無記名にて実施するため、質問紙の提出後は返却できないことも付け加えた。

Ⅲ. 結果

62名に調査票を配付し、62名より回収した(回収率100%)。

1. 対象者の基本属性(表2)

対象は、男性10名(16.1%)、女性52名(83.9%)、社会人経験歴は、ある2名(3.2%)、ない60名(96.8%)であった。

		n	%
性別	男性	10	16.1
	女性	52	83.9
社会人経験歴	ある	2	3.2
	ない	60	96.8

2. 新入生宿泊オリエンテーション実施による効果

1) 新入生宿泊オリエンテーション実施直前と後

の比較(表3)

宿泊オリエンテーションに関する独自尺度において、宿泊オリエンテーションは楽しかった(U=1246.5, $p < 0.001$)、大学教員から大学生の心得を学んだ(U=1227.5, $p < 0.001$)、大学生になるのだと実感できた(U=1535.0, $p = 0.040$)、この宿泊オリエンテーションで友達ができ(U=1339.5, $p = 0.001$)、同級生との宿泊が楽しかった(U=1338.5, $p = 0.002$)等の項目が有意に上昇した。

また、コミュニケーション・スキル尺度ENDCOREsに有意差は認めなかった。

2) 新入生宿泊オリエンテーション実施直前と大学生生活開始後の比較(表4)

宿泊オリエンテーションに関する独自尺度において、宿泊オリエンテーション2か月後は宿泊オリエンテーション前と比較し、宿泊オリエンテーションは楽しかった(U=1306.5, $p = 0.001$)、大学教員から大学生の心得を学んだ(U=1444.0, $p = 0.011$)、グループ活動には積極的に参加できた(U=1385.5, $p = 0.004$)、新しい同級生との宿泊が楽しかった(U=1369.0, $p = 0.004$)等の項目得点が統計学的に有意に上昇した。

また、コミュニケーション・スキル尺度ENDCOREsに有意差は認めなかった。

3. 宿泊オリエンテーションのよかった点・困った点(表5)

宿泊オリエンテーションのよかった点には「友達作りのきっかけとなった」「大学を詳しく知ることができた」「自分を知ってもらい、相手を知ることができた」「宿泊オリエンテーションで仲良くなれた友人は今も仲よし」等、困った点には「眠れなかった」などが挙げられた。

Ⅳ. 考察

1. 宿泊オリエンテーションにおける人間関係の実態

今回の研究において、面識を得て間もない新しい仲間とのオリエンテーション自体や宿泊を「楽しかった」と回答しており、2か月後の調査でも有意だったことから、学生生活の導入を目指す一

表3 新入生宿泊オリエンテーション実施直前と後の比較

N=62

		Mean	Mdn	パーセンタイル		U	p	
				25	75			
宿泊オリに関する独自尺度								
宿泊オリエンテーションは楽しかった	前	3.53	4.00	3.00	4.00	1246.5	<0.001	***
	後	4.24	4.00	4.00	5.00			
自己紹介ゲームはお互いを知り合う上で参考になった	前	4.23	4.00	4.00	5.00	1690.0	0.204	
	後	4.39	4.00	4.00	5.00			
この宿泊オリエンテーションで、友達ができ	前	4.05	4.00	4.00	5.00	1339.5	0.001	**
	後	4.52	5.00	4.00	5.00			
宿泊施設のオリエンテーションがあるとマナーが守れた	前	4.34	4.50	4.00	5.00	1426.5	0.004	**
	後	4.71	5.00	4.00	5.00			
大学教員から大学生の心得を学んだ	前	3.81	4.00	3.00	4.25	1227.5	<0.001	***
	後	4.37	4.00	4.00	5.00			
夕食は同級生との親睦を深めることができた	前	4.00	4.00	3.00	5.00	1438.0	0.009	**
	後	4.39	5.00	4.00	5.00			
夕食時、席の指定がなく困った	前	2.94	3.00	2.00	4.00	806.5	<0.001	***
	後	1.77	1.50	1.00	2.00			
グループ活動には積極的に参加できた	前	3.47	4.00	3.00	4.00	1210.0	<0.001	***
	後	4.08	4.00	4.00	5.00			
宿泊オリエンテーションに参加することで、大学生になるのだと実感できた	前	3.52	4.00	3.00	4.00	1535.0	0.040	*
	後	3.85	4.00	3.00	5.00			
宿泊オリエンテーションに参加することで、看護に興味関心が高まった	前	3.82	4.00	3.00	4.00	1699.0	0.220	
	後	4.00	4.00	4.00	4.00			
宿泊オリエンテーションに参加することで、大学生生活への不安が軽減した	前	3.56	4.00	3.00	4.00	1875.5	0.806	
	後	3.52	3.50	3.00	4.00			
宿泊施設は良かった	前	3.61	4.00	3.00	4.25	1533.5	0.042	*
	後	4.05	4.00	3.00	5.00			
新しい同級生との宿泊が楽しかった	前	3.53	4.00	3.00	4.00	1338.5	0.002	**
	後	4.16	4.00	4.00	5.00			
大学生になって初めて受ける授業は楽しかった	前	3.77	4.00	3.00	4.00	1558.0	0.056	
	後	3.45	3.00	3.00	4.00			
富士山キャンパス見学は楽しかった	前	3.32	3.00	3.00	4.00	1722.0	0.297	
	後	3.52	4.00	3.00	4.00			
富士山キャンパスの食堂は楽しかった	前	3.27	3.00	3.00	4.00	1255.0	<0.001	***
	後	3.95	4.00	3.00	5.00			
リハビリテーションクリニック見学は楽しかった	前	3.55	4.00	3.00	4.00	1786.5	0.478	
	後	3.42	3.50	3.00	4.00			
ENDCORE s								
自己統制	前	19.58	19.00	16.00	22.00	1657.5	0.184	
	後	20.36	20.00	16.00	24.00			
表現力	前	17.10	14.75	17.00	20.25	1830.5	0.757	
	後	18.32	18.00	16.00	22.00			
読解力	前	19.62	20.00	16.00	22.00	1732.0	0.415	
	後	19.95	20.00	16.00	24.00			
自己主張	前	16.49	16.00	14.50	19.00	1730.0	0.413	
	後	17.26	16.00	15.00	20.00			
他者受容	前	21.53	21.00	19.00	24.00	1765.5	0.626	
	後	20.92	20.00	18.00	24.00			
関係調整	前	20.31	20.00	18.00	23.25	1674.5	0.268	
	後	20.63	20.00	17.00	24.00			

Mann-WhitneyのU検定, *** <0.001, ** <0.01, * <0.05

表4 新入生宿泊オリエンテーション実施直前と大学生活開始後の比較

N=62

		Mean	Mdn	パーセンタイル		U	p	
				25	75			
宿泊オリに関する独自尺度								
宿泊オリエンテーションは楽しかった	前	3.53	4.00	3.00	4.00	1306.5	0.001	**
	後	4.18	4.00	4.00	5.00			
自己紹介ゲームはお互いを知り合う上で参考になった	前	4.23	4.00	4.00	5.00	1754.0	0.356	
	後	4.34	4.00	4.00	5.00			
この宿泊オリエンテーションで、友達ができた	前	4.05	4.00	4.00	5.00	1625.5	0.147	
	後	4.30	4.00	4.00	5.00			
宿泊施設のオリエンテーションがあるとマナーが守れた	前	4.34	4.50	4.00	5.00	1736.5	0.300	
	後	4.50	5.00	4.00	5.00			
大学教員から大学生の心得を学んだ	前	3.81	4.00	3.00	4.25	1444.0	0.011	*
	後	4.19	4.00	4.00	5.00			
夕食は同級生との親睦を深めることができた	前	4.00	4.00	3.00	5.00	1570.5	0.060	
	後	4.29	4.00	4.00	5.00			
夕食時、席の指定がなく困った	前	2.94	3.00	2.00	4.00	1298.5	0.001	**
	後	2.27	2.00	1.00	3.00			
グループ活動には積極的に参加できた	前	3.47	4.00	3.00	4.00	1385.5	0.004	**
	後	3.95	4.00	4.00	4.25			
宿泊オリエンテーションに参加することで、大学生になるのだと実感できた	前	3.52	4.00	3.00	4.00	1751.0	0.362	
	後	3.69	4.00	3.00	4.00			
宿泊オリエンテーションに参加することで、看護に興味関心が高まった	前	3.82	4.00	3.00	4.00	1790.5	0.477	
	後	3.90	4.00	3.00	4.25			
宿泊オリエンテーションに参加することで、大学生活への不安が軽減した	前	3.56	4.00	3.00	4.00	1788.0	0.472	
	後	3.63	4.00	3.00	4.00			
宿泊施設は良かった	前	3.61	4.00	3.00	4.25	1389.5	0.005	**
	後	4.18	4.00	4.00	5.00			
新しい同級生との宿泊が楽しかった	前	3.53	4.00	3.00	4.00	1369.0	0.004	**
	後	4.13	4.00	3.00	5.00			
大学生になって初めて受ける授業は楽しかった	前	3.77	4.00	3.00	4.00	1698.5	0.239	
	後	3.56	4.00	3.00	4.00			
富士山キャンパス見学は楽しかった	前	3.32	3.00	3.00	4.00	1652.5	0.162	
	後	3.58	4.00	3.00	4.25			
富士山キャンパスの食堂は楽しかった	前	3.27	3.00	3.00	4.00	1320.0	0.002	**
	後	3.87	4.00	3.00	5.00			
リハビリテーションクリニック見学は楽しかった	前	3.55	4.00	3.00	4.00	1855.0	0.726	
	後	3.47	4.00	3.00	4.00			
ENDCORE s								
自己統制	前	19.58	19.00	16.00	22.00	1596.5	0.102	
	後	20.43	20.00	17.00	24.00			
表現力	前	17.10	14.75	17.00	20.25	1668.5	0.257	
	後	18.55	18.50	16.00	23.00			
読解力	前	19.62	20.00	16.00	22.00	1739.0	0.438	
	後	20.53	20.00	16.00	24.00			
自己主張	前	16.49	16.00	14.50	19.00	1828.0	0.636	
	後	17.21	16.00	14.00	22.00			
他者受容	前	21.53	21.00	19.00	24.00	1840.0	0.679	
	後	21.73	21.00	19.75	24.00			
関係調整	前	20.31	20.00	18.00	23.25	1631.0	0.185	
	後	20.48	20.00	16.00	24.00			

Mann-WhitneyのU検定, *** <0.001, ** <0.01, * <0.05

表5 宿泊オリエンテーションのよかった点・困った点

よかった点	困った点
友達づくりのきっかけとなった	うるさい人がいて眠れなかった
大学を詳しく知ることができた	夕食時に、席の指定がなかった
自分を知ってもらい、相手を知ることができた	夜友達と課題をしていた
宿泊オリエンテーションで仲良くなれた友人は今も仲良し	人が部屋のふろをつかうときにトイレに行けなかった
友達の輪が広がった	
食事がすべてとても美味しかった	
他学部の富士山キャンパスを見学できてよかった	
バイキングが楽しい	
夕食の時皆と話せた	
リハビリテーションクリニックの見学では自分が普段行く病院の雰囲気ではなく楽しかった	

歩としては有効であることが明らかになった。しかし、友達関係については、オリエンテーション直後では「友達ができた」に有意差が見られたが、大学生活2か月後には有意差はなかった。このことから、大学生活が始まり、サークル活動やバイト等で、学内外の他者とのかかわり方や関係性に変化が生じ、新たな友人関係が形成されていくのではないかと考える。

新入生の人間関係づくりについて西村ら³⁾は、新しい環境に不安を抱えている新入生にとっては、大学生活の基盤となる人間関係づくりを行うことが入学初期の課題になっていると述べている。本研究でも、自由記載である宿泊オリエンテーションのよかった点に「友達づくりのきっかけとなった」と答えている。これらのことから、関係性が未確定の時期の宿泊オリエンテーションは、新たな人間関係構築の場として有効であると考えられる。

2. 大学生活適応の実態

今回実施した宿泊オリエンテーションでは、初年次教育を意識してプログラム構成を行った。その結果、宿泊オリエンテーション実施直前と後、宿泊オリエンテーション実施直前と大学生活開始後のどちらも「大学教員から大学生の心得を学んだ」の質問項目に有意差が見られた。しかし、「大学生になるのだと実感できた」については、宿泊オリエンテーション実施直前と後に有意差が見ら

れたが、大学生生活開始後には有意差が見られなくなった。これは、実際に学生生活が始まると、日々の生活に適応していき大学生になったという新鮮な気持ちが薄れていくのではないかと推測する。これらのことから、宿泊オリエンテーションで実感する新しい仲間、新しい教員、新しい場所での関わりは、新たな大学生活の始まりを体感する機会となっていると考える。

以上のことから、本学部で行われている宿泊オリエンテーションにおける初年次教育は効果的に行われたことが明らかとなった。特に、学生生活に適応するための大学生としての心得を学び、自覚する動機付けの場として有効であると考えられる。

V. 結論

1. 宿泊オリエンテーションを入学間もない時期に行うことは、新たな人間関係構築の場として有効である。
2. 宿泊オリエンテーションは大学生になったことを自覚する機会となるため、初年次教育を行う場として有効である。

引用文献

- 1) 本吉美也子, 矢野芳美, 永谷智恵: 看護学科入学生宿泊研修の効果 - 参加した学生への質問紙調査結果からみた効果と課題 - . 名寄市立大学紀要, 第11巻, 109-116, 2017.
- 2) 辻野順子, 森川英子, 西美江, 他: 学外宿泊オリエンテーションの教育効果の検証. 関西女子短期大学紀

- 要, 第19号, 27-38, 2009.
- 3) 西村昭徳, 石崎一記: リレーションを重視したオリエンテーションが新入生の大学生活的往還に及ぼす影響. 東京成徳大学人文学部研究紀要, 第15号, 51-60, 2008.
 - 4) 藤本学, 大坊郁夫: コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ研究, 第15巻 (3), 347-361, 2007.